

内水面漁協の活性化に関する研究－効果的な多自然川づくりの普及に向けた取り組みの検討－ (令和5年度)

吉田豊・村井涼佑

要 約

多自然川づくりの考え方や優良事例について、土木や水産に関わる職員等で共有し、今後の施策等に生かす契機をつくることを目的に、栃木県水産試験場では「多自然川づくり研修会」を2022年11月14日に栃木県県土整備部河川課と共催するとともに、2023年10月16日に国土交通省常陸河川国道事務所主催の「多自然川づくり研修会」に講師として参加した。両研修会の研修会終了後に実施したアンケートの結果、出席者の多自然川づくりへの理解が進んだことが確認されたことから、その考え方が今まで以上に現場に反映されることが期待される。また、前者の研修会を受け、那珂川水系武茂川で堆積土除去工事に併せた漁場環境に配慮した工法について土木関係者と水産関係者で検討を重ね、環境保全と防災の両立をコンセプトとした水制工を造成した。多自然川づくりをさらに普及させるため研修会は重要であるが、座学だけではなく実際の設計や施工を行い、効果を検証することを繰り返していくことが重要である。そのため、今後は河川行政と水産行政に加え、漁場を管理する漁協関係者と共同でこうした取り組みを進めていく必要がある。そのことが、水産関係者と土木関係者の信頼関係の構築、深化につながるものと考えられる。

なお、本研究は（一財）東京水産振興会および（国研）水産研究・教育機構水産技術研究所「内水面漁協の活性化に関する研究 研究成果報告書」の一環として実施した。詳細は（一財）東京水産振興会のホームページ（下記 URL）に掲載した。

https://naisuimen.suisan-shinkou.or.jp/pdf/report_2303.pdf

（指導環境室）